



# SkyLink Ver.8.0 Oracle版

## 汎用データアクセスツール

田辺 恒雄  
TANABE, Tsuneo

問合先 イースト株式会社  
TEL 03-3370-8451 URL <http://www.est.co.jp/skylink/>  
FAX 03-3374-9368 MAIL [sysmaster@est.co.jp](mailto:sysmaster@est.co.jp)

動作OS Windows 95/98/Me、NT4.0/2000/XP 対応データベース Oracle 7/8i/9i

価格 84,000円 (税別、マスターパッケージ価格：2クライアントライセンス+接続確認用の1サーバーライセンス付)

他に必要とするもの IIS (SkyWeb使用時に必要。NT4.0の場合はIIS 4.0、2000/XPの場合はIIS 5.0) 他

### はじめに

すべてのシステムの中核となるデータベースには、必要ときに必要な情報が必要な形で処理できることが要求されます。しかし、ビジネスロジックを実装するシステム開発では、どうしても基幹的で定型的なものを対象とせざるを得ません。ユーザーが求める多種多様な処理のすべてを、アプリケーションの機能として組み込むには無理があるからです。

一方、システム開発者の立場から見ると、システムのことをよく理解していない一般ユーザーに、データベースのアクセスを無条件で許可することには大きな不安があります。

厳密な仕様のデータベースと、日々変化を続けるビジネス需要。この相反する要求を満たすためには、データアクセスのための汎用アプリケーションを導入するのが一般的です。

しかし、基本的なセキュリティを守り、データを保護して、コンピュータに精通していないユーザーでも操作できるものはどれか。システムの根幹であるデータベースにアクセスするアプリケーションの選択には、慎重にならざるを得ないのではないのでしょうか。

さて、今回ご紹介するのは、このようなアプリケーションを選定する上で有力な候補のひとつとなるデータベースアクセスツール「SkyLink Ver8.0 Oracle版」(以下SkyLink)です。Sky

Linkは、データベースに接続して、直感的なインターフェイスと操作で必要な情報操作を行なうデータベース汎用ツールです。

### SkyLinkの機能

SkyLinkについては、Visual Basic マガジン 2001年7月号のこのコーナーでVer7.0の紹介をさせていただきました。詳しくは、バックナンバーをご覧ください。ここではSkyLinkの特徴を簡単に振り返っておきます。

この製品はデータベースにアクセスし、データの検索、更新、削除、追加が可能で、SQLを知らなくともマウス

オペレーションやダイアログによる設定だけで処理を行なうことができます。

また、検索や更新などの条件をコマンドとして登録しておき、いつでも再利用することや、接続やコマンドの実行、出力先の指定など一連の操作をマクロ機能によりバッチ処理することができます。指定できる出力先には、ExcelやWebブラウザ、テキストファイル、クリップボードなど多岐に渡ります。

Oracleをはじめとするさまざまなデータベースに対応するバージョンが用意されており、ExcelやAccess、VBなど他のアプリケーションからもSkyLinkの機能が利用できます。

付属のSkyWebはSkyLinkで作成したコマンドファイルを使用することで、

図1：運用環境

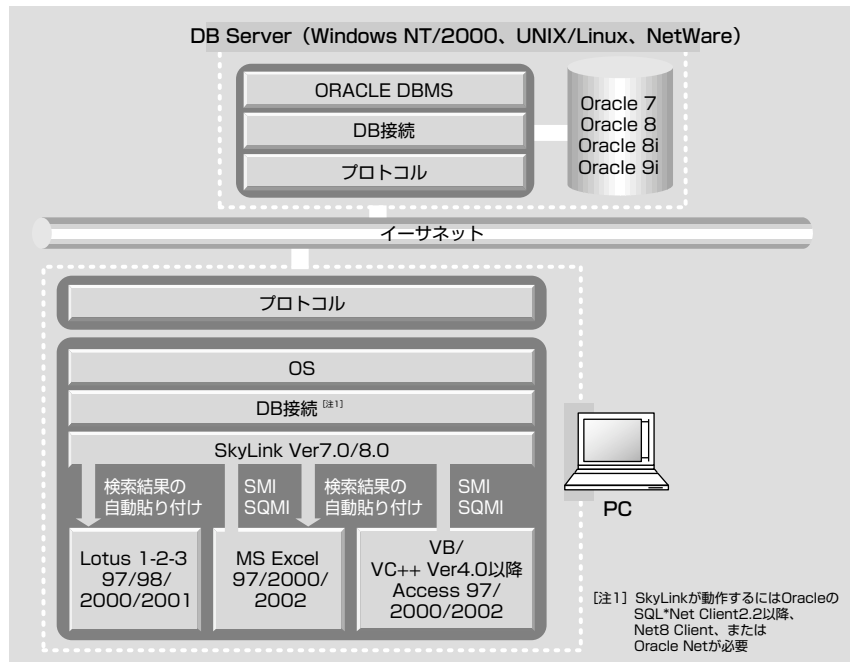


図2：SkyWebMobile



インターネット/イントラネット環境でデータベース検索を行なうWebアプリケーションを、ASP (Active Server Pages) などの知識がなくとも簡単に作成できます。

また、イースト株式会社のWebサイトには、オートデモストリーミング配信によるSkyLinkの機能紹介も掲載されています。SkyLinkという製品名をはじめとお聞きになる方は、こちらをあわせて参考にしてください。

SkyLinkの運用環境を図1にあげておきます。

### SkyLinkの新機能

今回SkyLinkは、1年9ヶ月ぶりのバージョンアップによって、バージョン

表1：SkyLink Ver.8.0の主な新機能

名称	説明
SkyWebジェネレーター (SkyWeb)	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前のバージョンになかったWebページ作成ウィザードに「戻る」ボタンが追加</li> <li>レコードの最大表示件数や最大検索件数の指定、スタイルシートの適用などの機能が追加</li> </ul>
SkyLink Online	<ul style="list-style-type: none"> <li>SkyLinkの機能をもつActiveXコントロール</li> <li>SkyLinkのインターフェイスをカスタムプログラムで使用できる</li> <li>モジュールを配信する形でWebアプリケーションに組み込み可能</li> <li>SkyLinkをオンラインで使用する場合、別途クライアントライセンスが必要</li> </ul>
SkyWebMobile	<ul style="list-style-type: none"> <li>SkyWebで作成した携帯電話用のWebページをPCの画面で簡単に確認できる (図2)</li> <li>URLを指定して携帯ウィンドウに表示可能</li> <li>目的の携帯機器の表示文字数を自由に設定可能</li> <li>iモードやJ-スカイウェブがサポートしている絵文字、accesskey、directkeyに対応</li> </ul>
SkyWebFTPバージョン2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>SkyLinkに付属するFTPクライアント</li> <li>新たにファイアウォールを通じた接続や匿名アクセスに関する機能がサポートされている</li> </ul>

ナンバーが8.0となりました。変更点、新機能は表1の他に、以下のようなものがあります。

### ■SkyLinkユーザーマネージャ

SkyLinkを通してデータベースにアクセスする場合、データベースのユーザー情報に従ってログオンします。データベースに適切な設定が行なわれていなければ、システムユーザーを含む他のユーザーのテーブルも丸見えになっていました (図3)。これは、セキュリティ上あまり好ましい状態ではありません。

今回のバージョンアップの最も大きな変更点として、「SkyLinkユーザーマネージャ」の導入があげられるでしょう。SkyLinkユーザーマネージャは、SkyLinkを通じてデータベースにアクセスする場合、データベースのログイン情報とは別に、ユーザーIDとパスワードを管理して、そのアカウントでデータベースへ接続できるようにします。データベースへの接続情報を隠ぺいできるほか、ユーザーごとに表示できるスキーマや表を限定することができます。また、指定したユーザーごとに、挿入、更新、削除のモード変更の可否

図3：適切な設定をしないと他ユーザーのテーブルも見えてしまう

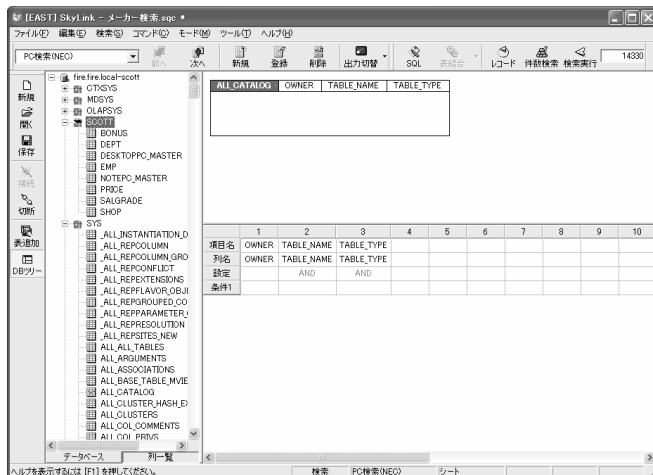


図4：細かな権限設定が可能

